

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 生涯にわたり学習する基盤を培い、自らの個性を生かしながら主体的に課題を解決する力を育み、生徒の可能性を伸長する学校をめざす。
- 急速に変化する社会に対応できる確かな学力を育成し、思考力・判断力・表現力を高める機会を与えることで、個性を伸ばす教育の充実を図る。
 - 自ら将来の夢と志を描き、自己の可能性を伸ばすとともに、自らの力で進路を実現し、地域や社会に貢献できる人材の育成をめざす。
 - 生徒が安全で安心して高校生活を送れるよう、それぞれの思いや環境・状況の違いを理解し、自他の生命や権利を大切にす意識の醸成に努める。

2 中期的目標

- 総合学科の完成年度を迎え、「部活動の盛んな進学をめざす総合学科づくり」を目標に、以下の5点を学校の中期的目標とする。
- 思考力・判断力・表現力など確かな学力を育成するため、教員の授業力向上を図る。
 - 授業力向上委員会が中心となって、「学校全体でめざす授業」を明確化し、「主体的で対話的な深い学び」を実践するため、アクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業に関する情報を共有し活用する。
 - HR 教室の電子黒板機能付プロジェクタやアクティブラーニングルームを有効に活用して、学校全体で ICT 機器を活用したアクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業実践をすすめる。
(学校経営推進費 H30 「なぎさスマイルプロジェクト～授業に笑顔を～」 電子黒板機能付き超短焦点プロジェクタ 18 教室 3,402,000 円)
 - 授業アンケートを有効に活用するとともに、研究授業や教員同士の授業観察等の活性化を図る。
※生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」を毎年3%引き上げて、令和4年度には70%以上にする。
(H30 67.2%、R1 63.3%、R2 63.5%、R3 63.2%)
 - 夢や希望の実現に向かって主体的に学び努力するキャリアデザイン力を育成するため、さらなる進路指導の充実を図る。
 - キャリアサポートルームを有効に活用して、「10年後の自分」を考えさせる。
 - アクティブラーニングルームを有効に活用して「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」、LHR 等で系統的なキャリア教育を実践し、本物や最先端に触れさせる。
 - 学校設定教科・科目「軌跡」「深学」を活用するとともに、進学講習を組織的に行う体制を充実させ、生徒の希望する進路の実現をめざす。
※進路希望実現率90%以上を維持する。(H30 88.5%、R1 93.1%、R2 92.1%)
※難関大学(関関同立・産近甲龍)の合格者を令和5年度には20名以上をめざす。(H30 5名、R1 4名、R2 6名)
 - 基本的な生活習慣を確立させ、社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)を育成するため、生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長を図る。
 - 基本的な生活習慣やマナー指導について、生徒指導部、学年、進路指導部が一体となって取り組む。
 - 自分の考えを他者に伝え表現するコミュニケーション力を育成するため、HR や委員会・生徒会、学校行事のさらなる活性化を図る。
 - 部活動への参加を奨励して、目標に向かって努力することの大切さを学ばせる。
 - 地域連携の一層の充実を図り、自主的・積極的に社会に参画する意識を醸成する。
※年間遅刻者数を毎年5%ずつ減少させ、令和5年度には1000以下にする。(H30 1631、R1 1273、R2 1226)
※生徒向け学校教育自己診断「学校生活は充実している」を令和5年度には90%以上にする。
(H30 86.4%、R1 86.4%、R2 86.2%、R3 84.8%)
※部活動加入率を毎年2%ずつ引き上げて、令和5年度には65%以上にする。(H30 55.2%、R1 60.1%、R2 61.7%)
 - 多様な考え方や立場を理解し、他者と協力・協働する社会形成能力を育成するため、人権教育や特別支援教育のさらなる充実を図る。
 - SNS などの新たな状況にも対応した高校3年間を通した人権教育を推進する。
 - 特別支援教育に関しては、高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みを充実させる。
 - 生活看護実習室を活用して、知的障がい生徒自立支援コース設置校として取り組んできたユニバーサルデザインの授業実践をあらゆる教育活動に広げていく。
※生徒向け学校教育自己診断「学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」を毎年2%引き上げて、令和5年度には85%以上にする。
(H30 82.9%、R1 79.6%、R2 75.9%、R3 75.4%)
 - 魅力ある総合学科づくりに全教職員で取り組み、「部活動の盛んな進学をめざす総合学科」を地域に定着させていく。
 - 高大連携を進めるとともに、特色ある教育課程の編成を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。
 - 中高連携をさらに進めるなど、広報活動を活性化させる。
 - 全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により教職員の時間外勤務の削減を図るなど、働き方改革に取り組んでいく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>※数字は学校教育自己診断の各項目における肯定的評価の割合を示す。</p> <p>【全体】 平成31年度に総合学科1期生を迎え、今年度が完成年度となった。 昨年度、今年度と保護者向け学校教育自己診断の提出率が高い数値を示しており、本校の教育活動に対する関心と期待の高まりを実感する。それは、ここ数年間に本校が推し進めてきた「挨拶をする、時間を守る、身だしなみを整える、毎日机に向かって学習するなど、当たり前のことをあたりまえに実行する」という生徒指導の基本方針への理解を得たものと考えられる。また、学校運営協議会では「生徒の身だしなみの状況がここ数年間で大きく良好な状態に進んでいる。学びの場づくりが実践されている」という地域の声も紹介され、あるべき姿を根気強く生徒に示してきた本校の教育活動の成果と言える。 これまで本校は、中心的コンセプトを「部活動が盛んな」「進学をめざす」に置いた総合学科高校として成長し続けることを目標に学校づくりを進めてきた。学習面においては、すべての学習に通じる基礎的・基本的な学力を向上させることはもちろんのこと、大学進学等の進路実現に向けてステップアップを図るための実践的・演習的な授業を数多く開講するとともに、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」では、進路選択や働くことの意味、将来を見</p>	<p>[第1回] 7月 ■書面開催</p> <p>○令和2年度学校評価及び令和3年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大の中での取組み状況がよくわかる。かなり厳しい状況下での取組みであったと推察する。評価指標に示された数値の増減だけでなく、内容を大事に今後教育活動に活かされたい。 感染症の今後の影響が見えない中、より細やかな状況把握と生徒への丁寧な寄り添いを心掛けられたい。 コロナ禍にあって、部活動や学校行事が制限される中、年度の終わりには生徒たちが充実感を得られる学校生活であってほしいと願う。 オンライン授業の実施状況や検討・準備の進捗状況を具体的に知りたい。 「なぎさスタンダード」を改めて確認したい。 3年次の「この学校に来てよかった」の割合が25%増加しているのは、学校の取組みが評価されたということだ。 <p>○分掌・学年の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 不合理な校則や不合理的な指導についてチェック体制は構築されているか。

府立枚方なぎさ高等学校

据えた科目選択などについて考え、自らの今と将来を凝視していく機会としている。入学時から生徒それぞれの進路決定までの道筋に応じた生徒支援の仕掛けづくりに努めている。また、部活動に関しては、運動系、文科系ともに年を追うごとに活性化しており、学習活動を含めた高校生活全般を充実させたいという生徒たちの意識の変化がうかがえるところである。

しかしながら、学校教育自己診断における生徒の評価で40%に達しない項目として、「授業以外での学習時間は1日平均1時間以上である」が25.2%と昨年度をさらに下回って低く、過去5年の数値も横ばい状況にある。また、保護者の「生徒たちは家庭学習に十分な時間を使っている」も42.4%と前年比に上昇は見られるものの、決して高い数値ではなく、これも過去5年は横ばい状況にある。この項目こそが本校の生徒の学習活動の弱みを示しており、今後本校の教育活動が向かうべき課題である。加えて、教職員の「担当の授業等で自宅学習を促すような指導を工夫して行っている」が66.6%と前年度を下回って振るわないことは、本校の現況に対する警鐘でもあり、課題克服の糸口ともなるものであると考え。よって、本校の喫緊の課題として生徒個々の「自主的学習への意欲喚起」及び「家庭学習時間の増」が上げられ、その解決のための対策を講じることが最優先であり、その実現のための具体的な仕掛けづくりが急務である。

今後は、知的障がい生徒自立支援コースの理念である「ともに学び、ともに成長する」教育実践を進めるとともに、知的探求、国際文化、芸術表現、生活看護、地域創造という、将来の進路を見通した5つの系列を一層充実させる。さらに、これまでの点の取組みをつないで線とし、線の取組みを寄せて面となすよう、入学時から進路決定までの生徒の進路実現のストーリーを描きながら、学校生活の充実と進路実現に向けた「家庭学習時間ゼロ」からの脱却への軌道をつくっていく。生徒が、部活動で培った意欲、持久力、忍耐力、向上心・研究心、チャレンジ精神をもって、日常の学習の質を高める、そうすることでもう一つ高い学びのステージへと生徒たちを押し上げようという教育活動の仕組みを創り出していきたい。

〔生徒〕

【前年と比べて数値が2%以上上昇した項目】

「この学校には他の学校にない特色がある」
「進路実現に関する指導は適切に行われている」
「学校はいじめなど生徒が困っていることに真剣に対応してくれる」
「学校の施設・設備は充実している」

【前年にと比べて数値が2%以上下降し75%未満となっている項目】

「少人数・習熟度別選択授業は充実感（やりがい）がある」
「授業以外での学習時間は1日平均1時間以上である」

【40%に達しない項目】

「授業以外での学習時間は1日平均1時間以上である」

〔保護者〕

【前年と比べて数値が2%以上上昇した項目】

「各教科からは必要な量の課題や宿題が与えられている」
「生徒たちは家庭学習に十分な時間を使っている」
「学校は人権尊重の教育を積極的に行っている」
「学校は生徒指導をしっかりやっている」
「学校は教育情報について公開・提供の努力をしている」
「学校は家庭への連絡を適切に行っている」
「校内の清掃は行き届いている」

【前年にと比べて数値が2%以上下降し75%未満となっている項目】

「学校は保護者が授業や行事を参観できる機会を設けている」

【40%に達しない項目】

なし

〔教職員〕

【前年と比べて数値が2%以上上昇した項目】

「本校は進路実現に関する指導を適切に行っている」
「本校は施設・設備について日常的に点検・管理を行っている」
【前年にと比べて数値が2%以上下降し75%未満となっている項目】
「担当の授業等で自宅学習を促すような指導を工夫して行っている」
「本校は生徒指導について生徒の納得が得られるように努力している」

【40%に達しない項目】

なし

- ・自立支援コース生徒の取組みや進路指導の課題や実績を知りたい。
- ・キャリアサポートルームの整備によって、進路面談や模擬面接などが活発に行われ、生徒たちが意欲的に進路決定に挑むことを期待する。
- ・人権教育HRや健康教育講演の内容と生徒の感想や変容を知りたい。
- ・生徒指導の方針や実際については、中学3年生の保護者が最も関心を寄せている点であり、学校を選択する基準ともなる。今後の強化に期待する。

〔第2回〕11月26日（金）

○本年度の取組みの中間報告及び授業見学について

- ・生徒の身だしなみの状況がここ数年間で大きく良好な状態に進んでいる。「学びの場」づくりが実践されていると評価できる。
- ・「わが子を成長させていただいた」と保護者の立場から感謝する。
- ・クロームブックの活用で家庭学習の時間の増加につながりたい。15分間動画を視聴した前提で授業する反転学習も効果的ではないか。
- ・対面学習をオンラインで補うハイブリッド授業に取り組むのも有効だ。課題が授業にいかに関結しているかが大事だ。
- ・学力の可視化について、数値データの連携だけでなく、生徒が自身の言葉で自分の現在の学力を語る言語化が大事だ。
- ・資格取得に向けた授業も必要だが、心を育てる教育が何よりも大切だ。
- ・最新機器を活用しながら社会を生き抜く力を生徒に養いたい。やはり、対面授業が重要だ。
- ・大学はハイブリッドなどオンラインに流れる学生が多い。教育は対面だ。これから後も残っていく。
- ・コロナ禍で子どもたちの不安な状態が続くことを心配していた。友と言葉を交わすなど何気ない日常の営みができなかった。「学校はなくてはならぬもの」と強く実感した。

〔第3回〕3月 ■書面開催

○令和3年度学校評価（案）及び令和4年度学校経営計画（案）について

- ・感染症拡大の中、満足のいく教育活動は困難だっただろう。次年度、十分な見通しが立たない状況にあっても、コロナを理由としない前向きな教育活動が必要だ。
- ・厳しい状況下で、内容を大事にして教育活動を展開されたと拝察する。
- ・評価指標に示された数値の達成と取組み内容の向上、生徒への丁寧な寄り添いを心掛けられたい。
- ・次年度から高等学校においては新学習指導要領が実施されるが、その方針に則り、引き続き「めざす学校像」の実現に向けた取組みを期待する。

○学校教育自己診断の結果について

- ・生徒アンケートでは、「各教科からは必要な量の課題や宿題が与えられている」の数値が高いにもかかわらず、「授業以外での学習時間は1日平均1時間以上である」の数値が低すぎる。「進路実現に関する指導は適切に行われている」の数値が高いのは良好だ。
 - ・保護者アンケートでは、「学校は保護者が授業や行事を参観できる機会を設けている」の数値が低い。コロナの影響があるためなのか。他の項目についても、令和元年度以前と令和2年度以降に数値に開きうかがえるが、この点についての分析が必要だ。
 - ・学校生活が充実している点が評価できる。また、学校が生活指導をしっかり行っていることは、すでに地域住民も実感しており、喜ばしいことだ。
 - ・生徒アンケートの多くの項目が上昇していることから、取組みの成果がうかがえる。保護者アンケートの評価も高く、信頼できる学校として認知されている。
 - ・生徒アンケートの「先生は相談や悩みごとにはいてねいに応じてくれる」の数値が、長引くコロナ禍にあってもなお、2年連続で上昇傾向にあることは評価できる。
- 分掌・学年の取組みについて
- ・着実に進路指導の成果がうかがえる。「進学をめざす総合学科」に向けて確実に歩みを進めている。
 - ・学年と進路指導部の連携が必要だ。1年から3年、卒業後までを見据えたキャリア教育の軸があればいいのだが。勤労観・職業観の育成のみならず、自己表現を図る力の育成や金融教育などの自己成長に資する取組みといった3年間を見通した一本筋の通ったキャリア教育を構築してほしい。
 - ・遅刻の減少傾向、自転車の安全運転や身だしなみ指導は評価できる。
 - ・4年制大学合格者数の増加から、教職員の努力が見て取れる。
 - ・日程と目的地を変更してベストタイミングで修学旅行が実施できたこと

府立枚方なぎさ高等学校

	<p>に、教職員の先見性と判断力の高さがうかがえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野別説明会、「先輩に聞く」、「プロに聞く」、大学見学会など、具体的な目標を見せて感じさせる機会をつくることは重要だ。 ・毎朝、教職員が学校外で登校時の交通安全指導をされる姿、最寄り駅や離れた歩道橋まで出向いての安全指導、特に、横断歩道を生徒が渡るたびに停止中の車に一礼される姿に、学校の取組みの確かさを感じ、感謝する。 ・連絡網「なぎさメール」では、丁寧にわかりやすく学校情報や連絡事項を発信いただき、同時に、生徒たちへの励ましや学校の思いをしっかりと伝えていただき、有難く思う。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
確かな学力育成のための教員の授業力の向上	(1) 授業力向上委員会を中心として、「めざす授業の全体化」を図り、授業の「なぎさスタンダード」を確立する。	(1) ア 授業力向上委員会及びオンライン授業検討委員会を計画的に開催し、授業の質の向上と学習機会の保障に取り組むとともに、アクティブラーニングやユニバーサルデザイン等に関する情報を共有し、授業の「なぎさスタンダード」を確立する。 イ 授業力向上に向けた校内研修を企画し、教員間で「めざす授業」の共有化を図るとともに、「楽しくわかりやすい授業」を実践して生徒の学習習慣の定着を図る。	(1) ア ・「 $\text{\textcircled{学}}$ いろいろ工夫されている授業が多い」前年度比2%増加 [71.9%] ・授業の手法や構成について研究・研修を進め、「なぎさスタンダード」を明確にする。 ・オンラインによる生徒と教員との授業課題（宿題等）のやりとりの日常化を試みる。 ・「 $\text{\textcircled{学}}$ 授業以外での学習時間は1日1時間以上である」前年度比2%増加 [27.1%] イ ・「 $\text{\textcircled{学}}$ 楽しくて、わかりやすい授業が多い」前年度比2%増加 [63.5%] ・授業力向上を目的とした教職員研修を実施する。	$\text{\textcircled{学}}$ は生徒向け学校教育自己診断 (1) ア ・「 $\text{\textcircled{学}}$ 授業の工夫」70.3% (1.6%減少) (○) 数値目標には達していないが、コロナ禍にあって、授業の手法や形態が制限される中、「工夫ある授業」の現状を維持した。 ・授業力向上委員会を中心に「なぎさ高校の授業スタンダード」としてあるべき授業スタイルを取りまとめ、学校運営協議会及び職員会議に提示・共有した。(○) ・オンラインによる学習課題の提示と提出などに取り組み、学習に対するモチベーションを下げない努力がうかがえた。(○) ・「 $\text{\textcircled{学}}$ 授業以外での学習時間は1日1時間以上である」25.2% (1.9%減少) (△) 全体としては減少したが、3年次では約5ポイント上昇している。 イ ・「 $\text{\textcircled{学}}$ 楽しくてわかりやすい授業」63.2% (0.3%減少) (○) コロナ禍にあって、授業の手法や形態が制限される中、「楽しくわかりやすい授業」の現状を維持した。 ・授業見学月間を設定し、研究協議を年2回実施した。(○)
	(2) 学校経営推進費を活用して設置したHR教室の電子黒板機能付プロジェクトの活用	(2)モデル授業者や各教科代表者によるICT機器を活用した研究授業と研究協議を実践する。	(2) 少なくとも前年度と同様の回数のICT機器活用に関する教職員研修を実施する。[6回]	(2) ICT機器の活用及びオンライン授業にかかる研修・協議等 6回(○) 1人1台端末の活用をめざして、導入期に教員間で認識の差が生じないように、「オンライン授業通信」を発行し、情報共有を試みた。 ●毎時多くの教室でICT機器が当然のように活用されることが日常となっており、授業の「なぎさスタンダード」が形成されている。
	(3) 研究授業や教員同士の授業観察の活性化	(3) ア 授業アンケートの振り返りシートを全教員が作成する。 イ 全体の研究授業を年間3回以上行うとともに、授業観察シートを全教員が作成する。 ウ 近隣中学校との授業交流を活性化する。	(3) ア 授業アンケートの学校全体の平均値前年度より上昇 [3.33] イ 全体の研究授業3回以上 [1回] ウ 近隣中学校との授業交流参加人数の一昨年度以上の増加 [30人] ※感染症拡大防止のためR02は実施していない。	(3) ア 授業アンケート学校全体の平均値は僅かに上昇3.34 (○) イ 全体の研究授業 2回 (○) 感染症拡大防止のため、行事の縮小・中止するなど、年間行事予定の変更を余儀なくされた中、昨年度の回数を上回って実施した。 ウ 感染症感拡大防止のため、近隣中学校との授業交流を実施せず。(ー) ●「確かな学力」を育むため、カリキュラム委員会・授業力向上委員会・ICT

府立枚方なぎさ高等学校

				活用研究室の取組みをさらに充実させ、教員の授業力向上と生徒の進路実現を直結させていく。
キャリアデザイン力育成のための進路指導の充実	(1) アクティブラーニンググループやキャリアサポートルームを有効活用したキャリア教育の実践	(1) ア 進学説明会をアクティブラーニンググループやキャリアサポートルームで開催するなど、進路指導やHRで有効に活用する。 イ 3年間トータルの系統的なキャリア教育の策定	(1) アイ ・進路希望実現率の前年度比2%増加 [92.1%]	(1) アイ 進路希望実現率は96.0% (3.9%増減) (○)
	(2) 進路実現に向けた本物・最先端に触れる活動の充実	(2) ア 「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」、LHR等を通じて、「卒業生に聞く」「TRYOUT」等の進路実現に向けた活動を充実させる。 イ 新たな大学連携先を開拓するとともに、アカデミックインターンシップを実施する。 ウ 英検等、各種検定の受験、資格取得の促進	(2) ア 「 <input checked="" type="checkbox"/> 進路実現に関する指導は適切に行われている」前年度比2%増加 [86.5%] イ 大学との連携活動回数の一昨年度比5%増加 [95回] ※感染症拡大防止のためR02は実施していない。 ウ 各種検定、資格取得者数の昨年度以上の増加 [50名]	(2) ア 「 <input checked="" type="checkbox"/> 進路実現に関する指導は適切に行われている」88.8% (2.3%増加) (○) イ 感染症拡大防止のため、大学との連携活動を実施せず。(一) ウ 各種検定、資格取得者数54名 (○)
社会人基礎力育成のための生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長	(3) 進学講習の充実による希望する進路の実現	(3) ア 学校設定教科・科目「軌跡」及び「深学」を工夫・改善するとともに、組織的、体系的な進学講習体制づくりを行う。 イ 一つ上の高みをめざす進路選定を勧奨しつつ、生徒の進路希望の実現を支援する。	(3) ア 「 <input checked="" type="checkbox"/> 学校は授業以外でも学習する機会(講習会・検定など)を提供している」前年度比2%増加 [67.1%] イ 難関大学(関関同立・産近甲龍)の合格の前年度比20%増加 [6名]	(3) ア 「 <input checked="" type="checkbox"/> 学校は授業以外でも学習する機会(講習会・検定など)を提供している」71.6% (4.5%増加) (◎) ●授業以外の学習機会の設定に努めたが、引き続きコロナ禍の影響も大きく限定的な実施となり、十分な機会を提供できたとは言いがたい。 イ 難関大学(関関同立・産近甲龍)の合格者4名 (△) ●進路実現に向けて、「家庭学習時間0」からの脱却を図るため、自主的学習スタイルのモデル化を進め、学びのサイクルのイメージ形成を行う。
	(1) 基本的な生活習慣の確立とマナー指導の徹底	(1) ア 遅刻指導や頭髪・服装指導などを粘り強く行い、基本的な生活習慣を定着させる。 イ 学年連携会議等で、生徒指導や行事活動などの学年間の調整を図る。	(1) ア 年間遅刻者数の前年度比5%以上減少 [1226] イ 「 <input checked="" type="checkbox"/> 学校生活についての先生の指導は納得できる」前年度比2%増加 [64.9%]	(1) ア 年間遅刻者数は1275 (4%増加) (○) 昨年度の年間遅刻者数を上回り、数値目標に達しなかったが、昨年度は2カ月間の臨時休業を終えての6月以降の総数であること、一昨年度の実績が1273であることを考え合わせると、現状維持の方向で成果を上げていると考える。 イ 「 <input checked="" type="checkbox"/> 学校生活についての先生の指導は納得できる」64.7% (0.2%減少) (○) 挨拶をする、時間を守る、身だしなみを整える、毎日机に向かって学習するなど、小さな努力を積み重ねるよう、日常生活のあるべき姿を厳しく求める中、指導に対する生徒の理解を維持した。
(2) リーダーの養成及びHRや委員会・生徒会、学校行事の更なる	(2) リーダー研修を実施し、生徒会が中心となって、体育祭や文化祭などの行事活動を活性化させる。	(2) ・「 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事やHR活動には皆が楽しく参加している」前年度比2%増加 [80.7%]	(2) ・「 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事やHR活動には皆が楽しく参加している」82.2% (1.5%増加) (○)	

府立枚方なぎさ高等学校

	<p>活性化</p> <p>(3) 部活動の活性化</p> <p>(4) 地域連携のさらなる充実</p>	<p>(3) 部活動紹介や体験入部の方法等を工夫することにより、入学時の入部率を上げ、部活動の活性化を図る。</p> <p>(4) 防災訓練や土曜講座など、保護者や近隣の小中学校、磯島地区コミュニティ協議会とのさらなる連携をすすめる。</p>	<p>・生徒会及び部活動員を対象としたリーダー研修を実施する。</p> <p>(3) 部活動加入率の前年度比2%増加 [61.7%]</p> <p>(4) 地域活動参加回数の一昨年度比5%増加 [36件] ※感染症拡大防止のためR02は実施していない。</p>	<p>コロナ禍にあつて、学校行事の中止及び規模縮小など活動が制限される中、生徒の学校行事に対する目的意識を低下させずに意欲を維持し、評価を上昇させた。</p> <p>(3) 部活動加入率は58.7% (3.0%減少) (○) 数値目標には達しなかったが、長期にわたるコロナ禍で、中学・高校と部活動の達成感を十分に得られていない生徒が多い中、大きなモチベーション低下をまねくことなく、課外活動に意欲的に取り組む機運を醸成した。</p> <p>(4) 感染症拡大防止のため、地域活動に参加せず。(一) ●授業内規律や基本的な生活習慣を確立するため、引き続き共感的生徒指導の徹底を図っていく必要がある。 ●生徒のリーダーシップ養成を図り、生徒会活動や部活動の自治化と活性化を図っていく必要がある。</p>
<p>社会人形成能力を育成するための人権教育や特別支援教育の充実</p>	<p>(1) 高校3年間を通じた人権教育の推進</p> <p>(2) 高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みの充実</p> <p>(3) ユニバーサルデザインの授業実践の活性化</p>	<p>(1) ア 入学年次の「産業社会と人間」を人権教育の視点で組み立てるなど、SNS等の今日的課題に対応した3年間トータルの人権教育を行う。 イ アンケート等により把握したいじめなどの事象に迅速に対応する。</p> <p>(2) 生活看護実習室を活用して、インクルーシブ教育をさらに進めるとともに、支援教育サポート校としての取組みを充実させる。</p> <p>(3) 生活看護実習室を活用して、ユニバーサルデザインの授業実践に取り組み、「共に学び共に育つ」教育活動をさらに推進する。</p>	<p>(1) ア 「学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」前年度比2%増加 [75.9%] イ 「学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」前年度比2%増加 [78.0%]</p> <p>(2) 訪問・来校相談、研修・講演回数の前年度比5%増加 [訪問・来校(電話)相談21件、研修・講演7回]</p> <p>(3) ・「この学校の生徒たちの関係はとてもよい」前年度比2%増加 [77.1%] ・授業の手法や構成について研究・研修を進め、「なぎさスタンダード」を明確にする。 ・授業力向上を目的とした教職員研修を実施する。</p>	<p>(1) ア 「人権の大切さを学ぶ機会」75.4% (0.5%減少) (○) 感染防止対策により全校集会や学年集会ができず、講演会などの集合型の人権学習は中止したが、新たに「産業社会と人間」や授業内で人権課題に取り組み、学びの機会を維持した。 イ 「学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」81.1% (3.1%増加) (○)</p> <p>(2) 支援教育サポート校としての講演依頼が増加した。訪問・来校(電話)相談 9件、研修・講演 10回(○) コロナ禍にあつて、個別の訪問・来校は慎重に行い、回数は昨年度を下回ったが、研修・講演では支援スキル向上の職員研修等に注力したため上回った。</p> <p>(3) 「この学校の生徒たちの関係はとてもよい」77.5% (0.4%増加) (○) 数値目標に到達していないが、引き続き感染症拡大防止のため、学校行事やクラス行事、部活動を活動制限する中、生徒間の良好な関係性を維持した。 ●生活看護実習室を有効に活用して、人権教育や支援教育に関する取組みを充実するとともに、支援教育サポート校として北河内地域の教員の専門性の向上に寄与していく。</p>

府立枚方なぎさ高等学校

魅力ある総合学科づくり	<p>(1) 特色ある教育課程の編成を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 再編 PT や教職員研修で、教育課程について議論をし、5つの系列を魅力あるものにする。</p> <p>イ 新学習指導要領の実施に向けて、議論を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 新教育課程の編成に向けて、再編 PT を特化した学校課題別に組織し直し、研究を進める。</p> <p>イ 新学習指導要領、とりわけ、観点別評価に関する教職員研修を企画する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 既成の「再編 PT」を「SNGs (持続可能な枚方なぎさの目標) 会議」として転成させ、学校の方向性にかかわって議論し提案できるよう分掌組織の一部に組み入れた。(○)</p> <p>イ 新学習指導要領にかかわる教職員研修を実施して全体化を進め、新教育課程を決定した。とりわけ、観点別学習の評価について研修と試行を重ねて評価の適正について理解を深め、評価の在り方について共通理解を得た。(○)</p>
	<p>(2) 「魅力ある総合学科」を作っ て、情報発信する など、広報活動に 力を入れる。</p>	<p>(2)</p> <p>ア 中学校訪問など中学校との連携を活発に行うとともに、中学校教員や保護者向け学校説明会を新たに実施するなど、広報活動に力を入れる。</p> <p>イ PTA 等と協力して、保護者に学校行事に積極的に参加してもらうなど、保護者との信頼・協力関係をさらに進める。</p>	<p>(2)</p> <p>ア ・学校説明会の実施形態と内容、開催時期、回数の工夫 ・令和3年度入試以降の志願倍率 1.1 倍以上を維持する [1.11 倍]</p> <p>イ 保護者向け学校教育自己診断の提出率の向上 [78.0%]</p>	<p>(2)</p> <p>ア ・学校説明会を8月から平均月一回以上校内集合型で実施し、加えてオンラインによる説明会や平日放課後の個別相談会を実施した。(◎) ・2022年度入試の志願倍率 (1.13倍) (○)</p> <p>イ 保護者向け学校教育自己診断の提出率 82.4% (4.4 割増加) (◎)</p>
	<p>(3) 全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により教職員の時間外勤務の削減を図る。</p>	<p>(3) 業務の平準化を進めるとともに、全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により、教職員の時間外勤務の削減をめざす。</p>	<p>(3) 教職員の一人当たり時間外勤務時間数の前年度比3%削減 [約32時間]</p>	<p>(3) 教職員の一人当たり時間外勤務時間数は約36時間(△) 約2カ月にわたる臨時休業を行った昨年度に比べて4時間の増加となったが、感染症が拡大する以前の一昨年度に比して4時間の減少となっており、教職員の意識が進んだと考えられる。</p> <p>●「部活動が盛んな進学をめざす」総合学科の魅力を打ち出すため、キャリア教育の基盤として「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を工夫するなど、生徒が意欲的に将来設計図を描くよう仕組みづくりを進める。</p> <p>●多忙な教職員のサポート体制を確立し、引き続き時間外勤務の削減に取り組んでいく。</p>